

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月～11月で各部門の最優秀作文を紹介します。

高校生の部最優秀作文

私にできることは

菊池女子高校1年 原碧海さん



私は、刑務所官舎で育ちました。官舎は刑務所に隣接しているので、朝夕、入所者の掛け声が響いて聞こえてきます。そのような場所で犯罪や非行を身近に感じて日常を送ってきました。毎年、受刑者が矯正の一環として製作している刑務所作業製品の即売会である矯正展が全国各地で開催されます。ある時の矯正展で、私はとても可愛らしいストラップや素敵な色合いの手作り小物類を目にしました。その後、刑務所の護送用のバスで刑務所見学ツアーに参加しました。私の父は、刑務官です。偶然ですが、その日の案内係は私の父でした。刑務所施設内の工場や、居住スペース、運動場などについて説明に耳を傾けながら私は、あんな可愛らしい製品を作る人が犯罪を犯してしまっただんなに素敵な色合いの製品を作れるんだから、きっとこの人は感性豊かなんだろうなと思いました。

作業製品の中には、少年院、少年鑑別所の製品もありました。少年犯罪の再犯率は高いと聞き、私は、原因になるようなことをいろいろ考えてみました。コロナ禍で再犯率が更に高くなっていることを考えると、マスクとソーシャルディスタンスが少なからず影響していると思いました。声を出してはいけない。しゃべり禁止。マスクのせいで表情が分からず気持ち伝わりにくい。このことから、人と人とのコミュニケーション、人とのつながり、接点が無くなったということが関係しているのではないかと考えました。

例えば、挨拶をするときは目を見て声を出す。人への感謝の言葉はたとえ身近な家族であっても必ず声に出すなどです。やっていることは、人によっては当たり前を感じるかもしれませんが、でもその当たり前のことを意識して実行する。毎日コツコツ続けている。小さなことからですが、そのコツの積み重ねがみんなに広がれば、大きく社会を変えるかもしれないと私は信じます。だから、今日も私は頑張れます。そしてこの先もです。誰もが自分の居場所があり、誰かが近くについて支えてくれる環境。その支えを感じ、感謝し、幸せを感じられる人間関係。つながりを感じ、寄り添って生きられる地域。そんな社会を作り上げようとみんなが自覚して行動で表すことが必要なのだと思います。

そのために私にできることは、心の通った挨拶をし、感謝の言葉をしっかりと伝えることです。こんな一人の想いがいつか大きな波となり、犯罪を犯さなくても快適に生きていける、孤独や疎外感のない社会になってほしいと思います。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書をご紹介します。

参加報告

プラチナ未来人財育成塾で学んだこと

菊池南中学校3年 渡邉莉々加さん



私は、今回プラチナ未来人財育成塾に参加して、2050年に「未来の社会はどうあるべきか」と「未来の自分はどうしたいか」という大きなテーマをもとに大学の先生方の講義を聞きました。その内容をもとに、全国から集まった中学生とグループワークをして、たくさんの方の意見を聞いて、これまでの自分にはなかった視点で物事を考えることができました。今回の講義で一番印象に残ったことは、菊池康紀先生のライフサイクル思考についての話です。「レジ袋とマイバックでは、どちらがエコなのか」ということを考えたときに、私は単純にマイバックの方がプラスチックを燃やすことがなく、エコだと思いました。

しかし、実際には、マイバックの製造はレジ袋の数十枚分のエネルギーを使っていることを知りました。また、レジ袋は、ゴミ捨てに使えという利点があります。リユースできることを考えるとわざわざゴミ袋を買うよりレジ袋を再利用した方がエコになるということを知りました。他にも、最近はお掃除機などのプラスチック製品が紙へと変わっています。その理由は、使い捨てが多く、リサイクル率が低いと、ポイ捨てされても自然に分解される紙へ変わっているためです。それはエコに思えますが、製造するにはプラスチックより紙の方がたくさんエネルギーを必要とします。私はこのレジ袋とストローについての話を聞いて、考えたことが2つあります。

解決に生かしながら、幸福度も高くしていきたいと思いました。私はこれから持続可能な社会に近づくために、菊池南中学校で現在行っている取り組みも見つめ直していきたいです。まずは、今回の学びを生かし、環境面で本当にエコなのか、循環できているかを考えてみようと思います。そして、全校生徒で取り組んでいく委員会活動に生かしていくために、今回の学びを発信し、菊池南中生が大人になっても正しい理解や行動ができるようにしていきたいと思っています。

